

研究の概要

神崎市立千代田中学校
 校長 糸山 和男
 神崎市立千代田東部小学校
 校長 副島久美子
 神崎市立千代田中部小学校
 校長 田中 達
 神崎市立千代田西部小学校
 校長 園田 道雄

1 研究テーマ

「児童生徒の思考力・判断力・表現力を育む授業実践」
 ～活用力を高める主体的・対話的で深い学びを通して～ 千代田中学校
 ～「考える力を育てる道徳授業の実践」を活かした指導の工夫～ 千代田東部小学校
 ～「考える力」を育成する算数科学習指導の工夫ーしろたタイム」を通してー 千代田中部小学校
 ～活用力を育む学習指導の工夫・改善ー算数科の授業づくりを通してー 千代田西部小学校

2 研究テーマの設定の趣旨

本千代田中学校校区は、校区内にいずれも小規模の小学校3校と中学校1校を有する地区である。”水と緑と次郎の里 ちよだ”とのフレーズがあるように、豊かな自然環境と下村湖人先生の教えが脈々と息づく中、児童生徒は純朴で人情こまやか、また、まじめで勤労もいとわず、落ち着いて学校生活を送ることができている。学習面では授業態度も良く、与えられた課題にも取り組むことができ、全国・県の学習状況調査において、知識や技能など基礎的・基本的な習得に関しては、概ね県正答率以上の成果を発揮できている状況がある。

反面、失敗を恐れるあまり自分のよさを発揮できないなど自己肯定・有用感が低く、自分の考えや思いを表現・伝達・説明したり、自ら構想を立て実践・評価・改善・発展させたりすることが苦手である。学習・学力面においても、思考・判断・表現する場面での消極的な活動が見られ、諸調査での記述問題や活用問題での県到達基準比の低さなどにもつながっている。

指定を受ける前年度の12月の佐賀県学習状況調査の各校の実態は、

千代田中学校では、教科全体県正答率比では1年数学で若干下回り、活用に関する問題における県正答率比では2年英語が下回った。また、教科全体到達基準比では1・2年とも社会・数学・理科の6教科で十分到達より下回り、活用に関する問題における到達基準比では1年英語・2年国語以外の8教科で十分到達より下回っている。

千代田東部小学校では、4・5年生のすべての教科と6年生の国語・社会・理科は県正答率を上回った。しかし、観点別に見てみると、4年生の算数における「考え方」と5・6年生の社会における「思考・判断・表現」が「おおむね達成」を下回り、5・6年生の算数においても「考え方」が「十分達成」を下回るなど、学んだことを生かし、主体的に考える力が不足している。

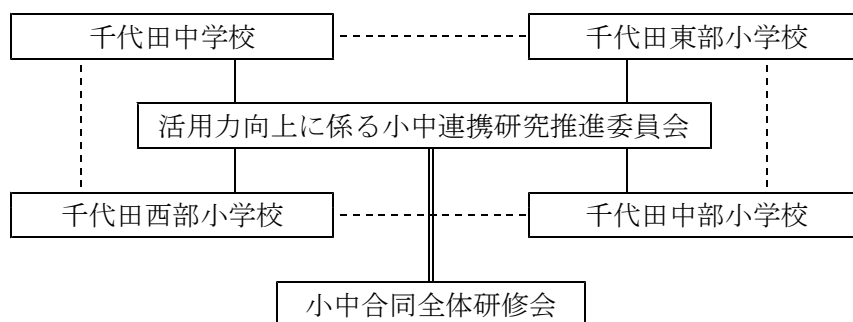
千代田中部小学校では、4年生はすべての教科で、5年生は国語・理科で、6年生で国語・算数・理科で県正答率を上回った。観点別に見てみると、4・5年生の算数で「考え方」が、6年生の社会で「思考・判断・表現」が「おおむね達成」を下回るなど、自ら考えようとする力や自分の考えを表現しようとする力が不足している。

千代田西部小学校では、4、5年のすべての教科と6年の国語は県正答率を若干上回ったが、6年の算数、社会、理科で下回った。観点別の到達基準比では、4、5、6年も共通して算数の「考え方」が、十分達成を下回り、算数の活用に関する問題の8割がおおむね達成を下回るなど、思考力・判断力・表現力に関する力が弱い。

そこで、本校区では、児童生徒の思考力・判断力・表現力を育む学習活動を授業を通して実践し、一人一人が学習に対し、主体的・多角的・協働的に取り組む態度と、学んだことを活かそうとする態度の育成を図る。合わせて、一人一人が自分のよさを発揮し、互いによさを認め、共によさを高め合う学校環境の整備に努める。

3 研究組織

- 活用力向上に係る小中連携研究推進委員会
 校長・教頭・教務主任・研究主任・学力向上対策コーディネーター
- 授業づくり部会（各学校教員）：思考力・判断力・表現力を育む学習活動に係わる。
- 学習環境部会（各学校教員）：学習環境、児童生徒活動の充実、調査統計等に係わる。
- 小中合同全体研修会（4校全職員）



4 研究内容

- 小・中学校が学びのつながりとして共通した取り組みは、
 - ・児童生徒の活用力向上を目指し、それぞれの授業で思考力・判断力・表現力を育む学習活動を設定し、授業の工夫と改善を図る。
 - ・主体的・多様の・協働的な学習環境を図るために、生活習慣や児童生徒活動等での共通した学校環境の整備を図る。
- 各学校の取り組みは、
 - ・千代田中学校では、「学習課題（めあて）」・「話し合い」・「まとめ」・「C-time（ふり返し）」活動を組み入れた主体的・対話的で深い学びを普段の授業に組み入れることで、活用力の向上を目指す。
 - ・千代田東部小学校では、算数の授業において、道徳授業の実践を活かし、課題提示・表現力育成・発問などを工夫した授業改善を行い、活用力の向上を目指す。
 - ・千代田中部小学校では、「考える力」を育成するために、これまでの「しろたタイム」をいかした学び合い学習とともに児童がより主体的に学ぼうとする力を向上させる手立てを工夫することで、活用力の向上を目指した指導を行っていく。
 - ・千代田西部小学校では、主体的に取り組むための課題提示を工夫し、「発問の工夫や既習事項の想起による能動的な学習」「小集団や全体で話し合う活動による対話的な学習」を算数の授業に取り入れ、活用力の向上を目指す。
- 具体的な研究活動は、
 - ・各教科における、活用力を伸ばす活動を取り入れた授業実践
 - ・各校での研究授業の実践と小中相互参観
 - ・学習環境や学習規律の整備・徹底
 - ・児童生徒の実態調査
 - ・職員に対する意識調査
 - ・小中連携による学習習慣・生活習慣・児童生徒活動の取組
 - ・授業づくりのステップ1・2・3の活用

5 期待される成果

- 全職員で、児童生徒の活用力の向上をめざし、思考力・判断力・表現力を育む学習活動を設定し、授業の工夫・改善を図ることで、
 - ・職員の指導力の向上が期待できる。
 - ・児童生徒の全国及び県調査での「活用」に関する問題の正答率の向上や無回答率の減少が期待できる。
- 小・中学校で連携した実践に取り組むことで、9か年を見通した教育実践が可能となるとともに、校種間の垣根が低くなり、千代田校区の児童生徒との意識が高まり、「中1ギャップ」改善に期待できる。